

平成26年度		伊井小学校		学校評価書					
項目	具体的取組	評価の観点	評価者	目標 指数 (%)	26前 期結 果	26後 期結 果	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
学力 向上 の 推 進	家庭学習の時間の目安(学年×10分)を設定し、家庭学習の手引きの活用と家庭学習のあり方の工夫	目安を設定し、宿題以外の進んで学習に取り組ませることができた。	教職員	90	75	100	家庭学習を自主的に取り組むように、手引きをもとに学年×10分を意識させたが、保護者側からは、宿題が精一杯で、なかなか自主学習には結びつかないという現状があるようだ。学年によっては、宿題だけで1時間かかってしまうということもある。	市確認テストなどの結果を受けて、全学年が足りなかった力を、宿題とタイアップして付けさせるようにする。意図的に学習させるなど、教員側もメリハリをつけて、徹底的に取り組むとよい。結果を受けて、8割の力をつけさせるために、基礎基本の本人の力を見極めて、意識を持って取り組む。	○学力向上については、先生方の努力が十分に伝わってくる。本当にありがたいと思っている。間違った答えについても大事なことと思う。 ○低学年が、本をよく読んでいる。児童クラブでも見られる。高学年は、読書より宿題。好きなシリーズ、ジャンルで読む子が多い。新しい本の紹介などで好きな本が見つけれられるきっかけづくりになればよい。 ○読み聞かせも報道機関など(例えばアナウンサー)に来ていただき、体験をしたり、児童との意見交流をしたりしてもよい。 ○新聞を読む活動では記事選びも大事だが、子ども新聞を活用してもよい。 ○家庭学習については、宿題をして終わりではなく、進んで勉強や自主学習ノート、プリントを増やすなど、時間を有効に使えるようになることよい。また、読書も時間に入れることよい。時間の確保については、1時間することの大切さをアピールする。 ○最近の子は、ぼーっとする時間・考える時間がない子が多く、忙しすぎる。好きなことだけして、宿題をしない。教師が褒めるのも、やる気の一つにつながる。 ○自己肯定感の基は、ゆっくり過ごすこと、自分を作ること、親や友だちに愛されること、生きる力をつけることだと思う。
		家庭での設定した学習時間を達成できた。	児童	80	67	80			
		子どもは設定時間一杯家庭学習に取り組んでいた。	保護者	80	65	59			
	重点単元(教材)等を決めて研究を行い、魅力ある授業の創造	重点単元(教材)を決めて教材研究をし、魅力ある授業を実践できた。	教職員	90	100	89	算数の分数、国語の読解力など繰り返し何度でも取り組んでいる。	力の定着に向けて、継続した指導を心掛ける。	
		日々の学習活動を通して、興味関心を持って取り組めた。(低学年)	児童	80	81	95			
		日々の学習活動を通して、興味関心を持って取り組めた。(高学年)	児童		85	90			
	授業等で、話し合う場面の積極的な取り入れ	授業や生活場面で話し合う力を高める指導を積極的に取り入れた。	教職員	90	100	89	話し合う力が弱い子は、ペア学習・グループ学習を積極的に取り組むことで、学び合い・高め合いができる。特に、理科の予想→実験→考察は特に有効だった。これらの話し合いの力を全体の場で活かせるかどうかは課題。	話すのが苦手な児童も、グループ活動によって聞く力がついてくる。継続して話し合い活動に取り組み、書く力も含め、言語活動の充実を図っていく。	
		友達同士で積極的に話し合う活動ができた。	児童	80	85	89			
	読書に親しむための週5日読書の推進	学校や家庭において、週に5日読書を勧めた。	教職員	90	100	86	低学年の読み物は親子読書に結びつきやすいが、高学年になるほど、親子読書の取組が難しい。学校の読書タイム等で読んでいるから、家庭では読まなくてもという意識もある。	家庭の協力や読書活動が好きな割合も上がってきているので、今後も家庭読書の継続をお願いしていく。学校で読まない、さらに読書離れが進むので、保護者の理解を得て、校内の環境を整えていくことが必要。	
		読書に親しむため、週5日読書に継続的に取り組んだ。	児童	80	70	85			
		各家庭において読書に親しむために、読書について話し合うなど働きかけを行った	保護者	80	49	56			
		子ども達の家庭において読書活動が好きになってきている。	保護者	80	62	64			
読解力のスキルアップの取組	朝学習や学習の時間の読解力アップの活動の取組を進めた。	教職員	90	100	100	朝学習などで新聞記事の要約などを継続して行った結果、少しずつではあるが力がついてきている。	読解力のスキルアップは簡単に上がるものではないので、継続して取り組んで力をつけていくことが必要。		
	読んだり、書いたりする活動に意欲的に取り組むことができた。	児童	80	75	77				
	子ども達は、家庭で、文章を読んだり書いたりすることが好きになってきた	保護者	80	57	61				

項目	具体的取組	評価の観点	評価者	目標 指数 (%)	26前 期結 果	26後 期結 果	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
豊かな心を育む取り組みの推進	係活動やお手伝いに取り組もうとする子の育成を目指した取組	進んで仕事やお手伝いをする子を育てるために、継続的に指導をした。	教職員	90	100	92	どれも目標指数に達している。お手伝いカードの成果だと考えられる。親への負担は大きいかもしれないが、保護者の意識は高まってきた。	今後もお手伝いカードを利用して、学校側のアプローチを続け自ら進んでお手伝いができるように取り組むことで家庭との連携を図る。	○徐々に言葉づかいが良くなっているようだ。児童クラブでは、学年が上がるに従って、恥ずかしさが増すのか、挨拶ができない子もいる。ズックを持って帰る日、お手伝いカードを掲示することで、発想が豊かになった。○異学年交流活動も、心を育てる。今後も異学年交流を進めていってほしい。
		進んで仕事をしようとしていた。。	児童	80	82	91			
		子どもたちが、家庭での役割分担や手伝いに積極的に取り組むよう働きかけた	保護者	70	75	81			
	言語環境の整備の取組	正しい言葉遣いについて常に指導を進めた。	教職員	90	100	91	正しい言葉に対する意識は低い。分かっているができない。常に指導すれば意識できる。昨年に比べて人を傷つける言葉は、聞かれなくなってきた。面談や普段の生活を通して、言葉遣いについて指導してきているその成果が多少なりとも出ている。	その場その場で、言葉遣いについて家庭と学校が連携して指導する。と同時に大人も自ら言葉遣いに気をつけるようにする。	○伊井地区は、家庭的でよい。特に、運動会では大人の人の動きに感動する子どもも見られた。また、地区の子ということが分かっているの、防犯の面でもよい。思いやりの心、がんばる力、優しさなどは、家庭や地区の人々など周りの大人の思いやりや優しさを受けて育っていくと思う。○心の教育や子の価値観を育てるような講演会を設け、保護者の働きかけをしてほしい。時間のゆとりを持たせるとよい。○自然と触れ合う機会があるとよい。ほめることが大事。しかし、いけないことをしたときには叱ることも大切である。
		いつも正しい言葉遣いができた。	児童	90	79	84			
		子ども達に正しい言葉遣いの声掛けをした。	保護者	80	72	85			
	挨拶の習慣化のための取組	児童に対して挨拶指導を継続できた。	教職員	90	100	100	全体的に数値はよいが、さようなら、こんにちはの指導も必要。教室で職員が仕事をしている等で、残っているときのあいさつ(直接会っていない時)や廊下ですれ違う時などいろいろな場面でのあいさつがまだできていない。	本年度行ったあいさつ集会など継続的に進め児童自ら進んで挨拶ができるように取り組んでいく。児童への徹底した指導が必要。教室横を通るときのあいさつなども、教職員が共通理解して行う。共通レベルもあげていく。	○「ありがとう」の場面を作って心を豊かにするとよい。○自分と人を大切にすることが、学校や家庭で守られていない。昔は親子の会話があった。お家の方は忙しいけれど、家事の途中でも、手を止めて聞いてあげることが必要。自分を肯定する言葉が少ない。いいところを見つける。ダメなところで盛り上がるのではなく、いいところで盛り上がるのが大事。先生の誉めることが最高、そして、親と一緒に誉めるから子どもは伸びる。先生も親も子の良さをみつけてほしい。
		「おはようございます」「ありがとう」等のあいさつを進んでいた。	児童	90	86	86			
		子ども達は、「おはようございます」「ありがとう」などのあいさつをしていました	保護者	80	91	95			
		保護者自身が「おはようございます」「ありがとう」などのあいさつをしていました	保護者	80	99	99			
	教育相談の充実を進める取組	いじめや不登校等の早期発見のために、児童理解に積極的に努めた。	教職員	100	100	100	児童がやや低いがほぼ達成。相談する人が誰もいない子は、ほとんどいない。相談する習慣を定期的にとっていることも、その理由として挙げられる。	絶えず注意深く現状を捉えながら今後も継続して取り組む。また、校内の相談体制を更に強化する。	○「ありがとう」の場面を作って心を豊かにするとよい。○自分と人を大切にすることが、学校や家庭で守られていない。昔は親子の会話があった。お家の方は忙しいけれど、家事の途中でも、手を止めて聞いてあげることが必要。自分を肯定する言葉が少ない。いいところを見つける。ダメなところで盛り上がるのではなく、いいところで盛り上がるのが大事。先生の誉めることが最高、そして、親と一緒に誉めるから子どもは伸びる。先生も親も子の良さをみつけてほしい。
		悩みに対して家の人や先生・友だちに相談できた。	児童	90	91	87			
子どもとの会話などを通して、理解しようとした。		保護者	90	98	100				
異学年交流活動積極的な取り入れ	交流活動時に熱心に取り組むように声かけを行った。	教職員	90	100	100	もちつき・大なわなどふれあい班として児童の特別活動が生きている。今年の活動を継続していくとよい。単発の活動ではなく、ある時期を通してずっと続けた(もちつきなど)ことが成果につながったと思われる。	ふれあい班を中心の活動はそのまま継続して高学年の資質の向上や自主性の伝統をつくる。前期にもふれあい班中心の活動・行事があるとよい。(七夕集会やミニ運動会など)	○徐々に言葉づかいが良くなっているようだ。児童クラブでは、学年が上がるに従って、恥ずかしさが増すのか、挨拶ができない子もいる。ズックを持って帰る日、お手伝いカードを掲示することで、発想が豊かになった。○異学年交流活動も、心を育てる。今後も異学年交流を進めていってほしい。	
	交流活動への参加について、仲良く活動することができた。	児童(低)	90	92	95				
	交流活動への参加について進んで取り組んだ。	児童(高)		92	93				

項目	具体的取組	評価の観点	評価者	目標 指数 (%)	26前 期結 果	26後 期結 果	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
豊かな心を育む取り組みの推進	児童の創意工夫を生かした委員会活動の積極的な取組	委員会活動を子どもの創意工夫を生かした活動にすることができた。	教職員	90	50	100	前半は教師の働きかけが弱かったが、後半は職員の取組(基盤)ができてきた。	子どもたちの創意工夫を生かした委員会活動の基盤ができつつあるので、このまま児童の自主性を尊重して取り組むようにしていく。	
		進んでアイデアを出して、委員会活動に取り組むことができた。	児童	90	85	90			
	思いやりの心を育成するための取組	相手のことを思いやり、親切にするよう働きかけた。	教職員	90	100	75	低学年などは「進んで」というと気付かないから難しいが、『やって』というと助けてあげられる。できた子でも自分ではできていないと思ひ、『できた』につけない子どももいる。	今後も道徳の時間や学級活動を中心に思いやりの大切さについて考えさせていく。また、今年度より取り組んでいるありがとう運動を継続して推進していく。日頃の声かけ(1日の最後にふり返る)が必要で、そのような時間の確保し、ありがとうの場面をつくって意識化させる。	
		困っている友達に思いやりの心を持って親切にできた。	児童(低)	80	76	77			
友達や低学年の子に思いやりの心を持って親切にできた。	児童(高)	80	73						
	家族に対して思いやりの心を持って親切にする場面が増えた。	保護者	90	90	88				
健康安全活動の推進	体力づくりを目指した伊井子タイムの記録向上の取組	業間活動の記録の伸びや達成感の意識付けを行った。	教職員	90	100	80	教員の働きかけが弱い。冬季は体を動かす機会がなかったのので、数値が低かったのではない。今はなわとびカードで頑張っている。運動能力調査の結果から全般的に県平均を下回る。	授業前のグーパー体操やこれまでの業間マラソンやなわとびはこのまま継続して取り組む。職員の働きかけも工夫していく。	○就寝時間が守られているのか、疑問に思うこともある。スポーツ少年団の活動時間や休日の取組について、特に、中学年以下は早めに帰宅するようにするとよい。 ○体力が、県の平均を下回るのは残念だが、体力とは子ども同士が、しっかり遊ぶことによって向上する。読書も大切だが、休み時間などに、異学年でしっかり遊んで欲しい。 ○家庭でもうがい、手洗いの習慣化を図るとよい。
		業間活動で、記録が伸びるように努力した。	児童	90	76	88			
	基本的な生活習慣(就寝時刻)の指導と定着の取組: 低学年=9:00、中学年=9:30、高学年=10:00	就寝時刻を守るように積極的に声かけを行った。	教職員	90	100	89	意識がなかなか改善されない。低い学年は決まっており、習い事をしていて難しい子もいる。家庭の意識の差がみられる。	基本的な生活習慣の必要性を発信するなど保護者への働きかけが必要である。個別指導も必要である。	
		決められた就寝時刻を守ることができた。	児童	90	86	84			
		子ども達は就寝時刻を守り早寝することができた。	保護者	90	85	82			
	うがいや手洗いを習慣化するための積極的な取組	うがいや手洗いを習慣化するための取り組みを積極的に進めることができた。	教職員	90	86	90	まだ、トイレや掃除の後に手洗いをしていない児童がいる。できたよカードで少し保護者の意識ができた。	保健だよりなどで保護者への呼びかけをしていくことが必要である。引き続き取組を進めていく。	
必要な時に、うがい・手洗いがしっかりとできた。		児童	90	87	87				
家庭生活においても、手洗いやうがいもしっかりとできた。		保護者	90	60	64				

項目	具体的取組	評価の観点	評価者	目標 指数 (%)	26前 期結 果	26後 期結 果	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
健康安全活動の推進	学校生活・家庭生活での安全を意識させる取組	生活の安全について指導を進めることができた。	教職員	90	100	91	学校でのけがはない。登下校でのけがのみ。廊下を走る子が多い。防災等の取組のおかげか家庭の意識は高い。	廊下歩行については職員の共通理解を図る。一番走りやすいのは1階廊下であるため、職員室の前の廊下は、用事があるときのみ通るようにする。また、児童活動の中でこの取組も進めていく。	○避難訓練等をしているが、命の大切さへの意識が欠けている。ゲームをして過ごす子が多い。 ○親も子ども以前に比べて遊びなどを通じた生活体験が不足しているだからこそ、油の上は滑るとか、疑似体験をさせ身を守ることを教えていく。学校でも、家庭でも危険を回避する力を養う面を大事にしていってほしい。危険箇所マップを活用する。
		安全に気を付けて活動することがよくできた。	児童	90	92	92			
		家庭生活における安全について、よく声かけができた。	保護者	90	94	94			
	清掃活動の充実を目指した取組	清掃活動に精一杯取り組ませるために積極的に声かけや指導を行った。	教職員	90	83	100	定着している。お掃除金メダルの導入で意識してやるようになった。	担任への情報交換を早く行い賞賛の場をもつ。このまま継続して取り組んでいく。	
毎日、口を閉じて時間いっぱい清掃活動に取り組むことができた。		児童	90	95	97				
二学期制の実践	授業時数の確保を心がけ、時間をかけた丁寧な指導の実践	楽しく分かりやすい授業を行うとともに、今まで以上に時間をかけて丁寧に指導することができた。	教職員	80	83	100	2学期制より、授業時数の確保ができ、全体を通してゆとりがあった。できないところについて、もう少し補充しようという気持ちが生まれた。	再テストや補充問題など、できなかったことに対するきめ細やかな指導が大切。個に応じた指導の継続。	夏休み、冬休みの始まり・終わりがつかみにくい。運動会にはスムーズにつながる。夏休み中の過ごし方を考えていくとよい。児童クラブには23、4人来ており、その他の子は、祖父母が対応している。 お盆明けから、生活がやや不規則になる子が出始め、計画的に過ごすための指導が必要になる。 成績表を2回とも子どもが持つて帰るので、成績表を見て、話をする機会があってもよい。成績表に替わる資料を具体的に提示するとよい。
		先生は、楽しく分かりやすい授業をし、時間をかけて教えてくれた。	児童	80	86	95			
		学校は、一人ひとりを大切にしたり分かりやすい授業を行うなど、授業改善に取り組んでいた。	保護者	80	88	89			
	児童生徒と触れ合う時間を増やしたきめ細かな対応	日常の対話により児童生徒の実態を把握するよう努め、きめ細かな対応を行うことができた。	教職員	80	100	100	授業時数同様、子どもとのふれあいも気持ちにゆとりがあった。	子どもと向き合う時間が増えた分、丁寧な教育ができるメリットを生かしていく必要がある。	
		先生と、学習や生活について話をする機会が増えた。	児童	80	93	99			
	二学期制に伴い長期休業を学期の途中として取り組むための効果的な手立て	長期休業を「学期の途中のもの」とし、休業中の支援を意図的・計画的に行うことができた。	教職員	80	100	100	冬休みは有効に過ごしたようだが、長い夏休みの意識をどうつなげて活用していくかが課題である。	夏休みの取組については、全職員で考えて、よりよいものにしていく。もっとできることはないか、続いているよという意識の下、夏休みの生活や学習について評価を生かしていくことも必要。	
		夏休みや冬休みは、計画的に課題に取り組むことができた。	児童	80	88	90			
		わが子は、夏休みや冬休みの期間は計画的に課題に取り組むことができた。	保護者	80	87	94			

項目	具体的取組	評価の観点	評価者	目標 指数 (%)	26前 期結 果	26後 期期 結果	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
	資料の工夫と児童や保護者に対する丁寧な説明	学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童や保護者に対して丁寧な説明を行うことができた。	教職員	80	100	100	長いスパンの学習・生活に関するふり返りであったが、資料の工夫や話の内容で、充実したものとなった。また、保護者の意見を十分聞くことができた。	丁寧な教育を念頭に今後も保護者の理解が得られるように児童が前に進めるように資料の工夫や説明に心掛ける。	
		先生との面談や振り返りにより、学習や生活の様子について考えることができた。	児童	80	80	83			
		個人懇談や通知表により、子どもの学習や生活の様子について詳しく知ることができた。	保護者	80	88	95			